

新たな総合計画に位置付けた方が良くと思う施策について(第3回鎌倉市総合計画審議会資料)

No	分野	その理由
1	地域コミュニティ 福祉 防災 防犯	自治会--地域のつながりを通じ 親睦を図り、 福祉活動に参画、防犯・防災 に努める。 自治会加入率は平成28年に83.5%であったが、令和5年は78%となっている。 人口全体では今後減少する一方、高齢者数は2020年に約52,000人であるものが、2045年には約62,000人に増加する。他方で、その後は高齢者数も減っていく。 高齢化の影響、若年層の不参加等により加入者数は年々減少。 減少防止のための行政の積極的な参加、指導が望まれる。
2	地域コミュニティ 子育て	今回のアンケート調査結果から、鎌倉市民が他地域と比較して、「自然環境、都市景観、文化芸術」という点が強みとして意識化されていることは想定内であり、歴史的、伝統的な鎌倉という地が培ってきた遺産を市民が誇りを持って意識していることに他ならない。また、そのイメージを紡ぐための努力を市全体で形成していることも評価できる。強み項目の中で挙げられる「地域のつながり」項目であるが、具体的な項目を見ると、「地域への愛着(60%)」は概ねあるものの、「地域活動、身近な相談相手といった地域とのつながり」に対しては、30~35%という低位であり、鎌倉という地域で居住し、また従事し、そこへの所属意識(belonginngs)の醸成が十分とは言えないのではないかと。つまり、地域に対する愛着というイメージは育っているが、 人と人のつながり には課題が山積している可能性がある。 放課後かまくらっ子では、放課後の3~4時間は、単なる預かりの場所ではなく、 子どもたちが「地域性」や鎌倉への愛着意識を醸成する場 として、活動内容を計画し実践している。「地域の人や環境と出会い、つながり、その土地の良さや魅力を発見し、その地域を活性化していく主体として自らが育っていける場所、それが「かまくらっ子」の存在意義である。昭和の時代などは子どもたちの居場所は自然発生していたわけだが、現在では市政全体で意図的に「かまくらっ子」の活動拠点の意義を明確にし、子どもたちが地域への所属感や人同士の繋がりを肌で実感できる場(居場所)を計画し実践していくことが望まれる。
3	地域コミュニティ	地域協生社会を目指し、市民、民間企業、自治体などが相互に協力し合う社会が重要になってくると思われるが、その為には 交流できる居場所や交流参加、学びの機会のコーディネート が必要。 しかし現実には地域住民のつながりは薄くなっているがその点をどう改善していくのか？ サービスを受ける市民が今後主体性を持って相互に協力し合うことでサービスを改善していく取り組みは必要ではあるが、社会の為に主体的に貢献していくことの必要性の周知、一部の協力的な市民にのみ負担になるような貢献がないようにする仕組み作りが必要と考える。
4	市民活動	総合計画の中に行政サービスの提供協働パートナーとして 市民活動 を位置づけ、活動費の予算化、後継人材育成の補助を含めた支援が求められる。現在330ある市民活動団体の活動と市の施策の方向性を合わせることが大事である。それによって、「じぶんごと」として活動に参加する人が増えると思う。また、市役所の職員の市民活動団体との協働の理解が得られる。 市民活動の重要性を示すひとつの例として、市民活動団体が継続して行ってきた里山保全活動と市との協働により(行政だけでなしえなかった)市民の住環境や生活の満足度に直結する緑地が守られてきた歴史があることを多くの市民の皆様を知っていただきたい。 「市民自治」という言葉ではなく「市民参画」という言葉を使っていた点はあるがありがたい。
5	多様性	アンケート結果より、「地域とのつながり」の評価が高い一方で「多様性と寛容性」への評価が低い。つながりが濃い反面、多様性が認められない地域社会の姿が浮かび上がる。望ましいのはそのバランスだろう。ダイバーシティの評価が低い理由は調査が必要であるが、 誰もが市民として認め合い、参画でき、住み続けることができるまちづくり が望まれる。
6	子育て	転出入者のアンケート結果からも顕著に分かるが、「子育て」分野への期待が他項目の中でも力を入れるべき割合が高い。高齢者対策同様に、「子育て」への満足度を高めるのは、全国どの地域でも同様だと思われるが、待機児童問題は、残念ながら鎌倉市では解消されていない。しかし、地域全体で子育て支援を支えていこうとする保育所、幼稚園、認定こども園、小規模保育所をはじめ、ファミリーサポートセンター、5つの地域にある子育て支援センターなどそれぞれの社会への貢献度は高いわけである。その実態が、子育て世代に伝わっていないとしたら 子育て支援に対する対応改善の具体的な方向性の「見える化」 を進めるべきだと考える。幼児期から初等教育までの施策を有機的に連携させることで、東京近郊の都市でありながら、自然と歴史遺産に恵まれている好立地の中で、子育て環境への効果を具体的戦略としてpushし、質の高い初等・中等教育にもつながっている「鎌倉の強み」として認識されることを期待する。

No	分野	その理由
7	子育て	<u>子育てにおいても繋がる</u> ことの重要性を理解と支援が必要。 放課後かまくらっ子が夏休みに使用できない時の <u>子どもたちの居場所</u> も必要である。 また、長期にわたり、繋がりを続けることを目指すアプローチの方法、また多様な育成支援から選択できるようなシステムが必要であると考え。
8	子ども	子どもたちから、鎌倉でもっと遊べる、海で遊べる、地域の人と繋がれる、おいしく食べられる、などの声が多数挙げられている。鎌倉が好きだからこのような声が上がっていると考え。とかく無視されがちな子どもの <u>夢をまちづくり</u> に取り入れたい。
9	教育	災害対策を含め、安心安全な教育環境を未来の子ども達に残すために「 <u>小中学校校舎の老朽化対策</u> 」が急務であると考え。避難所としての活用される「体育館」の整備計画（冷暖房、トイレ）についても優先順位を上げてとりくみ、万が一に備えることが望ましい。
10	教育	昨今の情報社会において通信ネットワークを活用した教育は必要なものと認識しているが、一方で、SNSに端を発した若者の犯罪も多発している。 GIGAスクールの取組みの中で、SNSの持つ危険性等についても教育されていることと思うが、教員や保護者が教えていくには限界がある。専門家による教育・指導をとおして、 <u>SNS犯罪</u> に巻き込まれない、巻き込まないための更なる取組みが必要と考え。
11	健康づくり	市民が <u>健康</u> に過ごせる街づくりとして、老朽化している施設も多く、また市民のニーズにマッチしていないため使いづらい施設もあり、 <u>施設整備</u> の方向性を示した方が良いと思う。
12	健康づくり	鎌倉市内の緑地を生かしたハイキングコースを整備して市民にも気軽に日々のウォーキングに利用してもらい <u>健康施策</u> の一つにする。保全ばかりではなく人の手を加えることも必要な部分があると考えており、緑地保全のあり方を市民が考え意識向上にもつなげる施策とする。
13	福祉	丘陵部の住宅地に居住する方々から、社会福祉法人による地域貢献の取組みの一環として、老人福祉センターの送迎車を地域の交通手段として活用を求める声があるが、現状では、センター利用者の送迎と地域活用の両立はセンターの運営上難しい面がある。公共バスも減便傾向にある昨今、外出しづらくなったという高齢者等への外出支援が求められている。鎌倉の特徴的な谷戸の環境対策、高齢者のフレイル予防の観点からも、 <u>交通不便地域にお住いの高齢者等交通弱者への抜本的な対策</u> が望まれる。
14	福祉 防犯 防災	今後20年間は高齢者数が伸び続ける。下記対策の強化が望まれる。 (65歳以上:2025年52千人、2045年62千人) ・ <u>福祉の更なる充実の必要性</u> (老人ホーム等の施設、買い物等の交通手段、病院、リハビリ、保険、etc) ・ <u>防犯対策</u> (相互の見守り、空き家) ・ <u>防災対策</u> (災害時避難行動要支援者)
15	防犯	市民が安全・安心に生活するためにも、 <u>防犯・防災対策</u> は速やかな施策が必要である。
16	防災	国道134号線は地震や津波、風水害などによる崖崩れで通行不可能になることを前提とした <u>防災対策</u> を立案する必要があると考え。 東西に抜ける道、鎌倉駅周辺など谷戸の内側にいる人たちが谷戸の外側に出す方策と手段を検討しておく必要がある。
17	防災	津波リスク地域、浸水リスク地域で建物の嵩上げや高床化、耐浪化等を進めるために <u>建物高さ制限等の土地利用規制の緩和</u> が必要かどうかを検討する(低層住居専用地域で10mや12mの建物高さ制限があると物理的に難しいので)。その他にも、市場の中で対策が進む状況をつくる方法を検討する。
18	交通 観光 気候変動対策	鎌倉の狭い道に、週末多くの観光客が自家用車で来るのを防ぐため、正月3が日に実施している <u>交通規制</u> を毎週日曜に実施する。徒歩での観光やレンタル自転車の活用を促す。 気候変動対策は環境施策だけでなく、他の施策との連携(例:車を使わなくても不便にならないまちづくり)により達成すべきものである。

No	分野	その理由
19	交通	鎌倉市内の道路は総じて幅員が狭く、電動車椅子が快適に利用できるような歩道、自転車を安全に乗れるような自転車レーンがほとんどない。かと言って、道路の拡幅は街並みの保全や用地買収の負担を考えると望ましくない。そこで、 <u>可能な区間では道路を一方通行化</u> し（一方通行道路のネットワークをうまく組み）、減らした車道一車線分を歩道や自転車レーン、さらにはグリーンインフラを整備する空間に転換する、道路の断面構成の変更を検討したい。
20	住宅 観光	日帰り観光客よりも、1週間から1か月滞在する長期滞在型観光客を増やすことを目指し、 <u>空き家をそのような観光客が利用できる宿舎にリフォーム</u> する。初期投資はかかるが、利益はすべて市の収入として還元されるようにする。
21	観光	観光と関連付けられる <u>道路渋滞対策</u> や <u>トイレの整備</u> は喫緊の課題である。
22	観光	<u>観光に来る人達のニーズを定期的に把握</u> する仕組み作りが必要。 例えば小町通りの商店が無秩序にどんな業態でも出店を許可するのではなく、古都鎌倉を期待して来る方にマッチした商店街作りをしていくなど、戦略的な街づくりが出来るようにしていきたい。 また、渋滞対策と観光施策を相反する施策として捉えるのではなく、両立させる必要がある。
23	観光	<u>宿泊して観光</u> に来てもらえるように整備する。ある一定程度の宿泊施設は立地地域を集中させ、そこから鎌倉駅などステーションに人を運ぶ仕組みを取り入れる。 (渋滞対策にも寄与できる)
24	観光	インバウンド観光客を含め多くの方が鎌倉に来ているが、時期と時間が集中してオーバーツーリズムの課題がある。日帰りから <u>宿泊滞在</u> を促す施策を実施し需要の分散化を図り、同時に再開発が進む深沢地区や海浜地区にホテル誘致を図るなど宿泊施設を増やす努力、戦略的な施策が必要であると考えます。それが市税の増収や産業振興、雇用につながってゆくのではないかと考える。 また、住民との共生のためにも、施策に位置付けることによって、観光の重要性の啓発、理解につながると思う。
25	観光	<u>観光政策はあくまでも市民のため</u> であるべきと考える。財政に対する貢献度（対策コストに対する歳入効果）を冷静に分析し、抑制的コントロールを図ることの妥当性を検証する必要があると考える。
26	観光	市民対話で、「オーバーツーリズム」「ゴミ」（ごみ、ゴミ箱も含めて）等の課題が挙げられている。鎌倉は基盤となる資源の豊かさと表裏一体のものとして多くの観光客を受け入れているため、さまざまなハレーションが生じる。観光客を排除するのではなく、鎌倉を守るステークホルダーの一員に迎える施策が求められている。観光地としての基盤を整備する財源が十分ではない。法定外目的税を含む資金確保や、DMOの設立による <u>観光地マネジメントの体制強化</u> が必要である。
27	観光 防災	<u>防災</u> は鎌倉市においては必須の課題である。 <u>市民のみならず観光者や高齢者、外国籍住民など幅広い対応</u> が求められる分野であり、人材育成も必要となる。
28	労働 産業振興	「雇用・所得・やりがい」の調査結果を課題ととらえ、改めて <u>職住接近「働くまち鎌倉」の実現をする対策</u> を打ち出す必要があると考える。既存事業社の成長支援対策以外に①新たな企業誘致施策②人材活性・人材育成に注力し、新規参入企業を増やし、多様な産業を生み出す。その結果埋もれやすい「女性・シニア・障がいを持つ方」などの多様な労働人口を活かせるようになる町は、生涯現役な魅力的な街へと繋がるであろう。観光産業以外の産業拡大を行い税収にも大きなインパクトを与えられる。
29	産業振興	持続可能な社会を構築するためにも、観光施策と連携した <u>産業振興施策</u> も欠かせない。 また、競争力のある企業誘致施策が必要である。
30	拠点整備	<u>深沢地域</u> 国鉄跡地整備と村岡新駅整備を着実に進めるべきである。
31	ゴミ	<u>「ゴミ」ステーションが移動することになった。</u> 町内会で話し合い、どこに置かせてもらえるかということで探したが、「ルールを守らない人がいるので」と断られた。各自が責任を持てば良いと思うのだが、難しい。

No	分野	その理由
32	生活環境	鎌倉の「いいね」と思う所に「リス」のことが書かれていた。 「リス」が可愛いと思っている人もいるけれど、被害を受けている人は、そうは思わないでしょう。 鎌倉市より捕獲器を借りるのですが、捕まえるより、増える方が早いです。
33	海岸	由比ガ浜海岸と材木座海岸は静かな波なので、それを生かし、子どもや家族連れはもちろん、障がいをもった方々も安心して海水浴や砂浜で遊ぶことができるようにし、他の海岸との差別化を図る。 サーフィンなどは七里ガ浜に誘導するなどして、鎌倉は海でも静かに過ごせることをアピールし、鎌倉市民も安心して遊べる場所を提供する。
34	都市公園	都市公園として市内にいくつか存在しているが、財源不足から整備が追い付いていない面もあると聞いている。一方で市民からは子供を自由に遊ばせられる広い公園の設置を望む声もあがっており、現存する公園が有効利用されていない可能性もあり課題感をもっている。PR不足なのか、整備がされていない影響なのか、また駐車場の問題もあると思われるので、市民目線での都市公園のあり方を検討する必要があると考える。
35	農業	鎌倉野菜で有名になった市内で作られる野菜ですが、後継者がいないため、畑は草だらけなので借りる人がいなければ貸したい。
36	気候変動 交通	脱炭素化を進める。交通分野の二酸化炭素排出削減については、自動車から徒歩・自転車・公共交通への転換を進める。建物については、省エネ性能の良い建物を推奨するとともに、太陽光パネル設置による創エネを進める。関連して、太陽光パネルによる創エネの効率を上げる（パネルの日当たりを良くする）ような建物形態制限を検討してみてもどうか（基本的に建物高さのばらつきがない方が良いと思われる）。
37	気候変動	気候変動に伴う暑熱（夏の猛暑）と水害（外水氾濫・内水氾濫）への適応策を検討する。市民・観光客のために「クール・シェルター（猛暑日に逃げ込める/滞在できる涼しい場所）」を確保すること、敷地からの雨水流出を削減するために民間及び公共の土地の被覆を人工物から自然物に変えること、グリーンインフラを整備すること、浸水リスク地域で建物の嵩上げや高床化を進めることなどが考えられる。
38	気候変動	市のシンボルとして1つ大きな風車を沖合に建てる。
39	環境	市民対話、こどもミライミーティング、アンケートで共通して「自然」「歴史」「文化」「海」への評価が高い。他にも治安の良さ、清潔感などもある。鎌倉では当たり前ものと考えがちこれらの価値を共有の財産と捉え、守り伝えていくことはベーシックだが必須。
40	土地利用	都市計画マスタープランや景観計画で目指している街並みと用途地域等の土地利用規制、市街地の実態が乖離している場所で、開発関係の紛争が生じる。そのような場所を特定し、あらためて目指すべき街並みを確認し、用途地域等の土地利用規制を見直す。
41	土地利用 住宅	宅地への改変を回避できるよう行政がサポートする。共同管理型ビオトープなど。家を探している人には、空き家情報を提示。
42	土地利用 交通	中心市街地や海岸、その他観光地に向かう自家用車の渋滞が激しい。そこで、中心市街地内や海岸沿いの駐車場を他の土地利用に転換させ、自家用車の利用が非合理的な状況をつくる。一方で、バスやシェアモビリティの利便性を向上させる。なお、高齢者や身障者のための最低限の駐車場は必要である。
43	市役所移転	市役所の移転に関する意思決定は、移転先候補である深沢地区の開発、移転した場合の跡地の開発のことを考えると、急いだ方がよい。移転のメリット・デメリットを整理し、早急に意思決定するとともに、移転する場合は、移転先・移転元の開発のあり方についてオープンに議論したい。
44	広域連携	鎌倉市の持続可能な将来を考えた時、人口減・税金減が明確になっており、近隣市町との連携強化を計画に入れておくことが必要ではないかと考える。医療体制、消防体制、スポーツ体育施設、ゴミ処理など鎌倉市単独で目指すものと連携を視野に計画を策定していくものがあって構わないと思う。市民にとってより良い方向性を示す計画にしたい。
45	財政	鎌倉市の財政力指数を見ると、経常収支比率の高さが際立っている。観光都市や今後進む高齢化社会を支えるための財源を税金・交付金以外に求める必要があるのではないか。
46	全般	「空気・騒音・清潔さ」、「遊び・娯楽」、「公共空間」に関する施策 転出者が転入者以上に注力してほしいと考えている（＝転出理由となった可能性がある）分野であるため。

No	分野	その理由
47	全般	「医療・福祉」、「買物・飲食」、「雇用・所得」に関する施策 これらの分野に関しては、準SWOT分析においても主観・客観ともに他自治体に劣後している分野であり、客観状況を引き上げることにより主観が向上するかどうかを見極めたうえで、その可能性があれば注力するのが得策であるため。
48	全般	「事故・犯罪」、「移動・交通」、「事業創造」、「多様性と寛容性」、「地域行政」、「デジタル行政」 これらの分野に関しては、準SWOT分析において“まだまだ足りない”という欲求観が示された分野であり、新しい市民欲求であることを認識したうえで、順次充足させることが必要と考えられるため。
49	全般	「自然景観」、「自然の恵み」、「住宅環境」、「子育て」に関する施策については現状維持 客観状況が他自治体に劣後していても主観的には満たされている可能性があり、現状維持は必要であるものの、さらに客観状況を向上させる必要性が低いとみられるため。
50	全般	総合計画自体は、市政を網羅的に書き込むということは必要であると思う。 しかし、総合計画の下の基本計画や実施計画についても、様々なことを書き込み過ぎており、現状、実現できていないことが多いように感じる。 そのため、新たな総合計画の基本計画、実施計画を策定する際は、様々なことを書き込過ぎるのではなく、優先順位をつけ、現実的に実施できるものを計画に落とし込んだ方が良く考える。 5年後に「この計画は実施できてよかった」という結果になるようなものが良い。
51	全般	第4期基本計画等を拝見しながら考えてみましたが、不足している分野については思い至りませんでした。一方で、重複してしまう政策や、相反関係にある施策がないかを重点施策に絞って再考するならば、余白がありそうだという印象です。また、ジェンダー平等の視点をすべての施策に取り入れるなど、分野横断的な課題に対して原課がそれぞれ意識する工夫を施すなどの点も同じく取り組む余地があると感じました。